

## 令和3年度 第1回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

### 1. 日 時

令和3年5月13日(木) 10:00~12:00

### 2. 開催方法

オンライン開催

### 3. 参加者

【長野県立大学】こども学科長 太田 光洋(信州幼児教育支援センター長)

【長野県保育連盟】会長 海野 暁光

【長野県私学教育協会】理事 宮川 義典

【長野県野外保育連盟】理事長 内田 幸一

【長野県県民文化部】こども若者局長 野中 祥子

こども・家庭課 課長補佐兼保育係長 河野 貴

自然保育推進員 藤田 良子

次世代サポート課 青少年指導主事 西村 智美

私学振興課 私学振興専門員 久保田 学

主事 大田 敬剛

【長野県教育委員会】教育次長 尾島 信久

教育政策課 主事 荻原 佑菜

特別支援教育課 指導主事 傳田 浩章

学びの改革支援課 課長 曾根原 好彦

義務教育指導係長 臼井 学

学校企画係主任 畠山 洸

指導主事 鈴木 崇晃

指導主事 古旗 明

幼児教育コーディネーター 寺島 勝江

### 4. 内 容

#### (1) 挨拶：尾島教育次長

- ・幼児教育支援センターは、令和元年度4月に開設され、3年目を迎えた。目的は、園種を超え、「オールながの」の運営体制で、保育・幼児教育の現場を支え、保育・幼児教育の質の向上を図ること。
- ・本県は、幼保小中高を通じて能動的・主体的な学びへの転換を図る「学びの改革」を進めている。幼児期の育ちが「学びの改革」の原動力となることから、当センタ

一の役割は極めて重要。

- ・保育者の学びを止めないために、今年度は、WITH コロナ時代のオンラインを活用した研修の在り方についても、研究を進めていく。昨年度作成した、園・小接続カリキュラム【理論編】や、保育者育成指標をもとに、幼保小接続カリキュラムの開発や保育者研修体系の構築を一層進めていく。

## (2) 協議

### ① 令和3年度信州幼児教育支援センター事業内容について

#### 【鈴木指導主事】

- ・今年度は三つの取組を中心に事業を進めていきたい。
- ・一つめ。信州幼児教育フィールド研修。  
今年度はオンラインで開催予定。実践園の保育の様子を録画して配信する。  
オンラインのメリットは、一つの画面で同じ映像を見ることで、協議が深まるのではないかと考えている。自身の保育をドキュメンテーションで可視化していくことも考えている。  
実践園が5園決定した。今後、リーダーミーティングも考えている。  
受講園も自園での実践に生かしていく内容にしたい。メリットとして、自園にいながらにして、他園とつながり研修が可能。  
第1回は3時間程度の日程を予定している。前半は動画を見て研修。後半は前半を踏まえてグループワークと考えている。
- ・二つめ。研修体系について。「育成指標 1.0」を作成したが、目指したい姿における三つのポイントを探っていきたい。  
専門部会構成員について。令和2年度に入っていた方にも入っていただく。目指したい姿における三つのポイントについて。保育者育成指標を各18の項目で作成した。  
例えば、②「愛情深い保育」だが、目指したい姿について、言葉が一人歩きしてしまう怖さがある。受け取り側の解釈でいかようにも受け取れるところが難しい。愛情深い保育といっても、子どもが失敗ないように先回りして準備することは、幼児教育支援センターの考えているものとは違うもの。  
その子どもを丸ごと受けとめていく。そういう視点から三つのポイントを考えた。三つのポイントの解説動画を作成し、観点を示した研修カードを使って研修していただくことを考えている。センターが行うオンライン研修をもとにして、各園でも園内研修をやっていただければありがたい。フィールド研修に参加していただいた先生が自園に戻り、研修を実施していただくと広がっていく。  
ポイントをおさえることで、ポイントを外さない研修を園ごとに進めることができる。また園から研修の内容について提案があれば取り入れていき、よりよいもの

へ更新していきたい。

- ・三つめ。幼保小接続カリキュラムについて。

ラーニングストーリーに限らず、発達や学びをつなぐ手法を考えていきたい。

例えば、昨日から今日、明日へのつながりと園から小へのつながりを考えていきたい。

令和2年度に理論編を作成し、県下の全ての各市町村教育委員会、各市町村の保育担当課及び園、小学校に配布した。各園から大変大きな反響をいただいた。

また、今年度は各市町村教育委員会や保育担当課の担当者を中心に接続カリキュラム検討委員会を開催し、情報の共有、幼保小の連携や接続について協議を重ねるとともに理論編の見直しや実践編の作成を行い、幼保小接続カリキュラム開発を進めていきたい。なお、実践編の開発委託については池田町と信濃町をお願いしている。

- ・その他の取組として、園種を超えた訪問支援や情報の発信を行っていく。

なお、保育・幼児教育フォーラムについてはオンラインで実施し、子どもの育ちを支える仕組みづくりをしていきたい。

#### 【太田センター長】

- ・今年度三つの事業が柱になるが、フィールド研修で得た動画を他の研修などで活用するなども考えていきたい。

#### 【野中局長】

- ・保育者研修体系は、理論にこだわりすぎて、先生方の迷いが生じることがあることも考えられる。実践に当たってはそのあたりも配慮していただけるとより効果的になるかと思う。

#### 【太田センター長】

- ・具体的にするとところは動画や三つのポイントのところで示していきたい。

#### 【海野会長】

- ・指標をベースにすることも考えられるが、理念を大事にしている園も多々ある。フィールド研修の第2回目のはじめに各園の理念を語っていただくと受講者もよいのではないか。

#### 【太田センター長】

- ・オンラインの取組が中心になるが、ICT環境も大きな課題になっている。市町村とのやりとりでも話題に出し、工夫してやっていく必要がある。

#### 【野中局長】

- ・現在、保育園も含め、ICT環境を整えていくことを考えている。

#### 【内田理事長】

- ・今後のことを考えるとオンライン化を推進していただけるとありがたい。全体として、諸々のものが整ってきた。さらに一歩。各受講者が自分が学んだことについて

方向性が見えてくるように、共通理解をすることがしやすいように。

**【太田センター長】**

- ・ICTは端末もそうだがWi-Fi環境も大切。
- また、フィールド研修の録画データについては撮影者の視点も学ぶことができる。

**【海野会長】**

- ・ICT環境について、別の端末を接続して見たら、意外と良かった。言葉では伝わりにくいものも、動画なら伝わる。ICTの活用方法について共有できる場があればよりよい。

**【太田センター長】**

- ・保護者が園に行くことも少なくなってきたため、こういったICTを活用した発信の取組もよい。

**【内田理事長】**

- ・指導要録について、労力はかかる。指導要録もよいが、子どもの姿が伝わる「生の姿」が伝わるものにしていきたい。

**【太田センター長】**

- ・幼児期の子どもの育ちは大きいと感じる。小学校だけでなく、幼稚園保育園からのアプローチも大事にしたい。幼児期の育ちは子どもの姿から保育内容を構築していくことで生まれる。

**【内田理事長】**

- ・幼児期に遊びを通して学んでいることが教科学習に思考パターンなどのところで生きてくる。問題解決のプロセスを子供たちがみんなで発見していくことが大事。

**【海野会長】**

- ・グローバルティーチャー賞受賞者の先生方と話したが、PBLは園でやっていることと非常に似ている。学校の先生方にも知ってほしい。

**【太田センター長】**

- ・子どもの経験が限定的になってきて、スキルも低下し、均一化してきている。子どもは経験の中で認知力も高まり、人との関わりも学ぶ。
- ・ICT環境は県でもがんばってもらい、小学校への声かけは学びの改革支援課でもがんばってほしい。

② 各課の取組について（項目のみ記載）

**【私学振興課】**

- ・補助金の関係について
- ・研修講座について
- ・「研修パスポート」「研修俯瞰図」について

**【こども・家庭課】**

- ・保育士等の資質向上事業について
- ・信州やまほいくについて
- ・自然保育研修（内容の変更）について
- ・自然保育専門研修について

**【特別支援教育課】**

- ・特別支援教育推進員の各地区での相談・支援について
- ・「発達障がい支援力アップ 出前研修」について

**【太田センター長より】**

- ・「保育・幼児教育に関する研修」についてのアンケートについて。研修の機会を求めている人が多い。今後、クロス集計等をしていく。

(3) 連絡

**【海野会長】**

- ・STEAM 教育に興味があり、今後、STEAM ジャパンと連携しながら実践を考えている。また経過については報告する。